

まず聞き取り調査

浦多発地区の306世帯 月など



聞き取り調査を受ける住民 (水俣市月浦公民館で)

水俣で住民検診始まる

熊大水俣 病研究班

熊大水俣病研究班の水俣市での住民検診が、二日から始まった。対象地区は月浦、出月、湯堂の水俣病多発地区で、三百八世帯千八百八十九人。

午前八時から月浦、出月、湯堂各公民館での開始と同時に各世帯主たちが、すでに配布済みの健康状態調査票を持参した。この日はこの調査票に基づいた聞き取り調査で、研究班が回答の一つ一つについて細かく質問していた。

月浦公民館では藤菜Aさん(五二)が「八十二歳の母は同郷者と比べ、からだが強いということではな
いが、手足のしびれはある。五十二歳の妻は血圧が高い。魚は食った。こんな例はどなるんでしょうね」と思案齟。湯堂では日原いBさん(五七)が「魚を毎日食べているが、頭痛がするのが気になる」と訴えていた。水俣病発生からかなりの時間がたっていることや、国の公害認定、また湯堂の潜在患者掘り起こしの強い声などから、検診を受ける地区民の表情には不安といったものは読み取れず、調査もスムーズに進んだ。